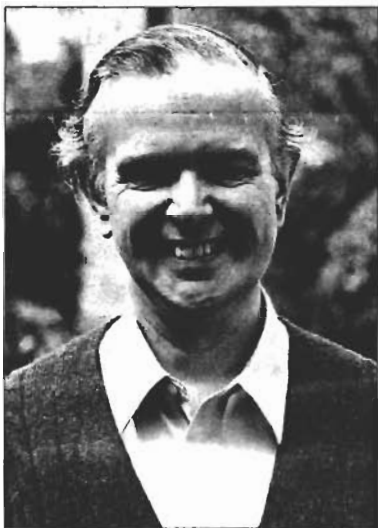


◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.34

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

平成14年5月1日発行

Sophia English Language Department Alumni Association



Our Mission

英語学科長 Michael Milward

Sophia University is a Catholic university. There is a special harmony between the two words. When the Christian Church finally gained freedom in the Roman Empire, it needed a descriptive name, besides than that of its founder. It chose the name Catholic, or universal. Its sense of universal mission is what brought St. Francis Xavier to Japan in the 16th century. Its desire to share in opening late Meiji Japan to the world-wide pool of knowledge brought the Jesuits back to start Sophia University as a gate to universal learning. That pool of knowledge comes in many languages, consequently, Sophia has been proudly polyglot, even through the nationalist days of World War II. Today, the mail, the telephone, air travel and the internet as well as the demands of business and international peace have made the understanding of languages and their cultures ever more important.

At the moment, English is still especially valuable as the most widely used language. We in the Department of English Language and Studies are deeply committed to helping Japanese people take greater part in the world fund of knowledge, not only as recipients but especially as contributors. We are not alone. The departments of the faculty enshrine the university's roots in several major linguistic traditions of the West. Its institutes of International Relations and Asian Cultures show two aspects of its reaching out to a wider future. As such we form a team, with occasional friction, but supporting and complementing each other's efforts, a team not only of students, staff and teachers, but including graduates, families, friends and the many other people involved in our mission. Your involvement is, as always, vital to our work.

(Milward教授は、2002年4月1日付で、英語学科長に就任されました。)

☆☆オール・ソフィアンズ・デーで会いましょう☆☆

2002年度 SELDAA 総会&懇親会のお知らせ

2002年度総会を今年もオール・ソフィアンズ・デーに合わせて、5月26日(日)に開催します。

総会では、活動報告、議案の承認の他、SELDAAの今後の活動について、多くの方のご意見を伺いたと思います。総会終了後には、ささやかながら親睦パーティーを予定しております。会費は無料。是非皆様お誘い合わせの上お越しください。久しぶりの母校で、楽しいひとときを過ごしましょう。

2002年度 SELDAA 総会および懇親会

日時：2002年5月26日(日)

12:00～14:00

場所：上智大学1号館202教室

脳はとってもおもしろい

山田 典子 (旧姓 堀米) (昭和55年卒)



中列左端の女性が山田さんです。

「あなたの脳に障害がありますか？」と聞かれてYESと答える人は少ないと思います。私も今の仕事を始める前は、NOと答えていたと思います。でも今ははっきりYESと答えます。人間ならば多かれ少なかれみんな脳に障害があるのです。一般的にはある程度を越えたところで「障害」という言葉を使っているだけなのです。

私は転勤族の(やはり英語科卒の)夫とともに、2~3年ごとに海外と国内の出入りを繰り返して、二人の男の子を育てながら社会復帰を図るぞ!と大学院の修士課程の勉強と格闘しているときに今の仕事の話が転がり込みました。それは知人がアメリカのフィラデルフィアにあるThe Institutes for the Achievement of Human Potentialという長い名前の脳の研究所の日本の支部を会社として始めるので手伝ってくれないかという話でした。私は今卒業できるかどうかで四苦八苦しているのだから、そんなことは考えていられない!と忘れていたのですが、卒業も間近というときにまた話がきました。この研究所は脳障害児の機能回復のプログラムを親に指導していて、その分野での研究成果を一般の子どもにもいかせないかと活動しているとのこと。見学だけでも…、と思って足を運んだのですが、そこで会った脳障害の持つ子どもたちの明るさに心を打たれ、そこからあっという間に今日まで3年近くの時間が経ってしまいました。▶

その研究所は50年ぐらい前にグレン・ドーマンという当時医学療養士だった人がフィラデルフィアで始めたものです。過去にはJ.F.ケネディの父親とか、日本人では落馬での脳挫傷を負った競馬の福永騎手などの機能回復をお手伝いしています。

年に二回脳に障害を負った子どもたちに会います。重度の障害で四肢の全く動かない子どもから、ダウン症、自閉症などの子どもとさまざまな障害の子どもたちがいます。立ち上がれなかった子が、自力で立って「やったよ」という顔をするのを見るとき、一緒に幸せな気持ちになります。半年前には声をかけても全く反応しなかった自閉症の子どもが、名前を呼ぶと目を合わせて笑ったとき、また新たな驚きを感じます。子どもたちに元気と勇気をもたらしているのです。勿論みんながみんなどんどん回復していくわけではありません。でも、みんな明るく前向きです。

現在は脳障害児の機能回復から構築した研究成果を一般の子どもをよりすぐれた子どもにできたらという目的に活用しようという取組みも行なっています。興味を持ってくださる方はホームページをご覧ください。脳は自分の一部なのにまだまだわからないことばかり。私の興味もまだまだつきることはなさそうです。

ドーマン研究所ホームページ
<http://www.doman.co.jp/>
連絡先：Tel:03-3797-5950
Eメール：info@doman.co.jp

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ロンドン便り

荒木 貴司 (平成7年卒)

荒木 (旧姓 函越) 彩子 (平成7年卒)

2001年12月6日にロンドンに赴任しました。丁度2ヶ月が経過し、そろそろ生活の立ち上げもひと段落したところ。ロンドンは私が学生時代に1週間旅行をただけでどんな国かよく分からない状態で行きましたが、ここでは今感じているところを少々書かせていただきたいと思います。



1. 表面的かもしれませんが差別が無い。私も妻もアメリカに住んだ経験があり、何かしらの差別を受けましたが、ここにはそのような怖さが無い。したがってあまり日本を離れた、外国に来たと言う感覚にはならない。
2. 残念ながらサービスはPoor。家の乾燥機が故障してクレームしてもなかなか動いてもらえない、云々 (他にもありますが割愛)
3. 食事は国際色豊か。インド、中華、イタリア他色々な料理を楽しめます。特にインド料理は大ブレイク中でいろいろなインドカレー(レトルトカレーも美味!)を試しています。

聞くところによると日本でのインドカレーは辛いのですが、辛いカレーと言うのはマドラス地方のみなのだそうです。イギリス人は辛いものが苦手なようですべてマイルドな味です。残念ながらイギリス料理は…、と毎日楽しみながら生活しています。一度は訪問する価値のある国だと思います。

卒業生短信

3月上旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)
また、皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

■いつも同窓会会報を送って下さり感謝です。お蔭様で皆さんの活躍ぶりを拝見できます。私は41年前上智卒業後全く海外生活をしています。カナダのバンクーバーで聖公会の司祭となり、そこにある日系人教会を司牧し、ロサンゼルス、サンフランシスコの教会でも働きました。6年ほど前一旦バンクーバーに戻りましたが、過去2年間全寮制の英国立教学園(中、高校生)のチャプレン(学校付き司祭)をしておりますが、来年3月には待望の退職です。英語学科の一期生としてguinea pigにされましたが、大学1、2年は英文学科の学生と一緒にのクラスで大いに楽しみました。今でもたまに帰国すると、これらの友人が集まってくれます。バンクーバーに来られた時は連絡下さい。
所沢 基喜 (昭和35年卒)

■12年間の日産の出向会社での勤務を終え、今年定年を迎えました。生涯独身を貫くのも案外つらいもので、何かと将来への不安を感じている今日この頃です。即ち、好き放題生きてきた結果としての代償のツケを今払っている心境です。今後も格好良く頑張って生きるなんて思わず、毎日楽しく過ごせればと思っております。最後に、皆様が幸せでありますように!!
小暮 光幸 (昭和40年卒)

■生保の総合職として10年近く海外投融資、経営企画を経験し、体調を崩して退職した後、帰郷しました。現在、結婚し京都に住んでいます。人生とはわからないものですね。精神科医として多忙な主人のそばで、この頃懐かしく上智を思い出します。どこか華やかな国際色豊かなキャンパスで、英語学科のタイトな授業に必死だったことも、今では夢のようです。おかげさまで外へ向けての人生に広がりをもつことができました。身につけた様々なことを大切に、これからも人生を楽しんでいきたいと思えます。
大井 (旧姓 山田) 優華 (平成4年卒)

■次男の中学校入学を機に、学校のそば(三重県津市)に引っ越しました。落ち着く間もないうちに、whippet(ドッグレース用の犬)の仔犬を衝動買いし、トイレのしつけなど、その飼育に四苦八苦しています。Whippetは180mを12秒ほどで走る脚力があるそうで、以前から飼っているtoy poodle (8才)と朝から晩まで追いつ追われつ、じゃれているのか、けんかしているのかよくわかりませんが、とにかくすごいわが子です。また、添

い寝をしないと夜泣(鳴)きをしたり、朝、起こしてトイレに連れて行かないとおねしょをしたりと、人間の子育てに通じるところが多々あり、妙になつかしい気持ちになります。病気やけがをせずに、無事育ててくれればと思っています。

乙竹 (旧姓 川口) 涼子 (昭和60年卒)

■2000年7月に(株)アーバンプロデュースから「コンビテンシーによる目標管理・評価制度マニュアル」を出版。テスト販売をクリアし、2002年1月に第一勧銀総合研究所が、同書の斡旋販売を始めました(<http://www.dkr.co.jp/>)。

既に制度を導入しているクライアントからは、単に人事評価にとどまらず、人材アセスメント(品定め)に役立つと好評です。

重田 孝夫 (昭和53年卒)

(経営コンサルタント。ロードスター・アソシエイツ株式会社(<http://www.lodestar.co.jp/>))

■共同監訳にて『ポストモダン事典』を松柏社より上梓しました。浜松は静岡文化芸術大学に奉職しております。

下楠 昌哉 (平成3年卒)

■初めてイタリア旅行へ行った昨年かイタリア語を勉強しています。結構はまってしまい、もう4回行ききました。残り少ないイタリア年の醍醐味を満喫したいと思っています。

埴 純一 (平成4年卒)

■結婚と同時に秋田に来て、ちょうど30年になります。よく飲み、よく働いてくれる夫と共に結局英語を教えるでもなく学ぶでもなく、専業主婦で4人の子供たちを育てあげた30年でした。

日本で初めてのワールドゲームズが昨年秋田県で開催され、“国際化”にむけて頑張っている秋田県です。そうそう、10月29日からは秋田空港と韓国のソウルが結ばれました。今年の9月には、俳句の世界大会が秋田市の隣町の雄和町で開催されます。私もそろそろ英語でお役に立ちたいと頑張っています。

皆さま、秋田の自然を楽しみにおいで下さい。温泉と同じくらいあたたかい人情にあふれたところです。

丸山 (旧姓 田村) 郁代 (昭和44年卒)

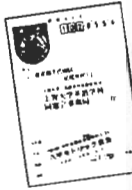


■ Thanks for the latest SELDAA #33. I hope the new president (Mr. Ishikawa) does well. I am studying a new career, working in a church, no longer in a school. It is a challenge.

John Nissel, S.J. (上智大学名誉教授)

※事務局より：Nissel先生は、この4月に東京に戻られました。現在、S.J.ハウスにお住まいです。

〒102-8571 千代田区
紀尾井町7-1S.J.ハウス
電話：03-3238-5111
(S.J.ハウス代表)



SELDA #33. I hope the new President (Mr. Ishikawa) does well. I am studying a new career, working in a church, no longer in a school. It is a challenge.
J. Nissel '91

Nissel先生の直筆の原書です。

■昭和48年卒または一緒に勉強した仲間の方々へ——
また久しぶりに会って互いの無事、健闘を祝いませんか？
勿論男子女子クラス全員です。SELDAAの総会でお会いしましょう。そして、その後、二次会(本会?)に移動しましょう。楽しみにしています。
池沢 (旧姓 高橋) 成実 (昭和48年卒) (090-1705-2970)

■昭和52年に卒業された英語学科の皆様、お変わりありませんか。早いもので上智を巣立ってから25年。イグナチオ教会をはじめ、大学周辺の風景もかなり変わりました。ミニスカートやパンタロン姿の長い黒髪がキャンパスを賑わせていたあの頃。手動の英文タイプで右手がつりそうになったり、修正テープがまだ必需品だった学期末。ほのぼのと思い出します。
日頃お忙しくてなかなか同級生に会えないという方、卒業以来一度も母校を訪れたことがないという方もたくさんおられるでしょう。今年は私達の銀祝です。5月26日(日)に是非ご一緒に祝いましょう！

菅野 (旧姓 中山) 桂子 (昭和52年卒)

■～74-52aクラスのクラス会～
何年ぶりか思い出せないくらい久しぶりにクラス会を開きました。
インターネットの普及のお陰で、大半の方々にメールで連絡がとれる昨今、以前のように往復葉書に印刷する手間もなく、マウスとキーボードの操作だけで30数名の方々に、瞬時に連絡が取れるのですから、数年の間にずい分とテクノロジーが進歩したものです。
さて、あまりにも久しぶりのクラス会であったため、「エー、クラス会なんて今さら……」という反応が多いのでは、という予想に反して、「出席します」の返信をたくさん頂き、26名の方々が12月1日の午後、ソフィアンズクラブに集合しました
(そうです、内親王愛子さまご誕生の日です!!)。軽食を

頂きながら、26名全員の近況報告と相成り、お子さんの受験のこと、親の介護問題、仕事のこと、趣味の話題と、時間を延長して頂いて、延々4時間にも渡って、おしゃべりの花が咲きました。卒業して24年の年月が流れたなんて、どうしても信じられないくらい、皆さん学生時代のままで(もちろん、しみ、しわ、しらがの3Sがないわけではありませんが)、おっとりとしていらした方はそのままおだやかに、テキパキと我が道を行っていた方はやはりカッコよく自立されて、皆さん素敵に年を重ねられたなと、うれし楽しい4時間はあっという間でした。次回は銀祝の年の来年の再会となる予定です。

デジカメで撮った写真もHP上で見て頂く形式にしたため通信費もほとんどかからず、インターネットは「熟女たちの再会をも、たやすく可能にする」ことを実感したクラス会でした。

74-52aクラス会幹事

——石井 (旧姓 増谷) 真由美 (昭和53年卒)

■昭和62年に卒業された皆様、今年は私達の銅祝の年です。そう、卒業して、もう15年が経ってしまったのです。仕事や育児に追われている毎日ですが、初夏のひとつきを、懐かしのキャンパスで過ごしてみませんか。5月26日(日)のオール・ソフィアンの集いに是非お出かけください。懐かしい顔に再会できることでしょう。
東郷 公德、大日方 聖信 (昭和62年卒)

ドナル・ドイル教授最終講義報告 英語学科 東郷 公德

昨年10月に70歳の誕生日を迎えられたドナル・ドイル教授が、2002年3月をもって退職されるにあたり、1月18日(金)に最終講義が中央図書館9階で行われました。“Glimpses of Unfamiliar Ireland”と題された講義には、皇后美智子妃殿下もおいでになり、最後まで熱心に聴講されました。講義では、スライドを交えて、アイルランドでのドイル先生の生い立ちや人との出会い、先生の教育論などが語られ、またドイル先生と皇室との関係についても紹介されました。当日は厳重な警備体制が敷かれ、会場に入場できる人数も170人余りに制限されました。その結果、会場に入れない学生や卒業生が多く出ました。せっかく最終講義を聴きに来たにもかかわらず、会場に入らなかった皆さん、申し訳ありませんでした。

SELDAA セミナー

SELDAA セミナー

SELDAA セミナーは、毎月一回、水曜日 10:30～12:00、ソフィアンズ・クラブで開催されております。今回は、2001年度後半に行われたセミナーについて、出席された方にご報告いただきました。

これまでに開催されたセミナー

●2001年9月26日(水)

乳井 京子氏 (NPO地球の木副理事長、昭和46年英語学科卒)
『ネパール識字教育に学ぶ
——輝く瞳に魅せられて』

参加者に問題意識を持たせようと趣向が凝らされていて、90分はあっという間に過ぎた。趣向の一例を紹介すると——。

識字教育の大切さを体験させるために、乳井さんはネパール語で水、薬、毒と書いた3つの紙コップを置いた。お好きなものをどうぞ、というわけだ。だが、ネパール語の読めない私は毒(実は塩水)を飲んでしまった。嗚呼！

演題は「輝く瞳に見せられて」だったが、NPO活動に情熱を注ぐ乳井さん、あなたの瞳こそ輝いていた。(昭和46年卒 牧内(羽根田)操)

●2001年10月24日(水)

Mrs. Maria Pomianowska (駐日ポーランド共和国大使夫人)
小楽器演奏とポーランド文化の紹介
ポーランドのママのやさしさ 一大使夫人の
古楽器演奏を聴いて—

マリア夫人は黒地に花の刺繍の衣装で、大変愛らしい様子であった。

楽器はフィデルポッカとスーカ、それにサーランギである。皆小型で膝に乗せ、左手の爪で弦を横から押さえて弓で奏でる。この独特の爪奏法は16世紀のポーランドで盛んであったが、今はとても珍しいとのこと。夫人の膝でフィデルポッカが小躍りし、命が吹き込まれていく。音色も発声も力強く素朴で、民族の悲劇の歴史さえも想起させる。「まるでベビーをあやすようですね」の問いに頬を染め、



「フィデルポッカを抱くと2歳の児が泣き出すの」と囁いて下さった。

(昭和46年国文学科卒 平林 清江)

●2001年11月28日(水)

Mr. John Williams (上智大学外国語学部英語学科講師)
『映画論 「いちばん美しい夏」を通して』

つい最近、映画館で「いちばん美しい夏」の予告編を見た。黄金色の稲穂、茶髪の高校生、上品な和服姿の老女、しかも監督が外国人名であることが、強く印象に残った。

上智のSELDAAセミナーに出席してみたら、なんと、講師はその映画監督だった。イギリス生まれのジョン監督は、自分の生い立ち、映画の世界に魅了されていった経緯を語り、自身で製作した異邦人の心象風景的短編フィルムを見せて下さったりして、いつしか私達は若さ溢れるジョン監督の世界にぐんぐん引き込まれていった。人の心の中に潜む弱さ、醜さに暖かい共感を寄せ、人と人との絆を大切に。人間とは、自分とは何かという普遍的な問いかけに真摯に向かっていく。そんなジョン監督の生き方は、監督自身が14才の時、「アギーレ、神の怒り」に魂を揺さぶられた様に、人々の心を揺り動かすに違いない。

(昭和41年卒 山下 景子)

●2001年12月12日(水)

片野順子氏 (ジャーナリスト、昭和52年英語学科卒)
『歩く大使館——実践から学ぶ英語』

NHKの「ハロー大使館」のビデオを拝見しながら、各国の文化、歴史、料理などを5分間で紹介する番組作りの過程や裏話など、興味深いお話をうかがうことができました。「コーディネーターという仕事を通して知り合った、日本在住の外国の方々との交流が、私の一番の宝物」とおっしゃる。人と人との輪が広がって、それが新たな番組作りの糧となり、「NHKスペシャル」の番組作りにも生かされているとのことでした。最後に、母として妻として嫁として、仕事との両立の悩みもちょっぴりのぞかせていました。

(昭和52年卒 鈴木 洋子)

※お詫び：SELDA会報No.33のこの欄で、講師の片野順子様の卒業年を誤って掲載してしまいました。正しくは昭和52年卒です。片野様を始め、関係者の方々に多大なご迷惑をおかけしました。訂正してお詫びいたします。

●2002年1月23日(水)

高山 絵美氏 (NHK放送通訳、会議通訳 昭和58年英語学科卒)

『NHK放送通訳の現場から』

衛星放送の海外ニュースは、受信後わずか30分で放送されます。同時通訳の方たちはその間に担当するニュースを決め、原稿を準備し、番組ではメモ書き程度原稿を見ながら、日本語でニュースを報じます。そんなテレビの仕事の舞台裏や、会議通訳としての貴重な経験談を伺うことができました。

「英語のある程度できる人は大勢います。あえて通訳を使うのは日本語で表現する力を求めるから」一さやかに語る高山さん、そのよく通る声と表情豊かな話しぶりは、学生時代そのまま。思わず、20年前の英語劇が記憶によみがえった私たちでした。

(昭和58年卒 内田(旧姓 山本) 明美、中山(旧姓 酒巻) 久枝)

●2002年2月27日(水)

Fr. Peter Milward (上智大学名誉教授)

『English Humour』

イギリス人はいかにユーモアのセンスに富んでいるか、その実態を中世の文学作品の抜粋を例にあげて、ユーモアたっぷりにわかりやすくご説明くださいました。

ユーモアの起源は14世紀Chaucerの叙事詩トロイラスとクレシーダの恋物語にみられ、Shakespeareの悲劇にも登場する笑いを誘う場面、Sir Thomas Moreが断頭台に上がると言う、そんな深刻な状況にありながらも、執行人にユーモアで語りかける場面等は、どんな時でも可笑しさを見つけることの出来るイギリス人のユーモアのセンスをよく理解できる例でした。イギリス人のユーモアは優しい心持と愛情のこもったものであると言うお話は強く心に残りました。

(昭和41年フランス語学科 鎮目 治子)

●2002年3月13日(水)

和泉伸一氏 (上智大学外国語学部英語学科講師)

『Second/Foreign Language Learning and Education』

Attending a monthly seminar always gives me a fresh perspective I really need. Today was no exception. Dr. Izumi gave a lecture on second language acquisition, focusing on developing explicit and implicit knowledge in foreign language learning.

He first gave us exercises in Japanese and English, and

demonstrated the differences between explicit and implicit knowledge of language. "Implicit knowledge" is knowledge of language that you can show in performance but cannot easily explain. "Explicit knowledge" is knowledge about language, and he likened it to scaffolding, which you can take down after you acquire "implicit knowledge." The ultimate goal in second language acquisition is developing implicit knowledge, and making the target language one's second nature. For someone who is struggling with second language acquisition forever, Mr. Izumi's concluding words that "...a language is a meaningful entity. Plenty of exposure to the target language in meaningful contexts is very important in second language acquisition," left a great impression.

(平成元年卒 大石 りか)

SELDA セミナー 今後の予定

●2002年4月24日(水)

小平(旧姓 今泉) さち子氏

(NHK放送文化研究所主任研究員、
上智大学教育学科非常勤講師 昭和52年英語学科卒)

『これからの子供とメディアを考える』

●2002年5月22日(水)

寺島萬里子氏 (内科医)

『病癒えても——ハンセン病・強制隔離90年から人権回復へ』

●2002年6月26日(水)

井上久美氏 (上智大学外国語学部英語学科教授)

『広告から見たアメリカ文化』

●2002年7月10日(水)

村井吉敬氏 (上智大学外国語学部アジア文化研究室教授)

『インドネシアにおけるイスラーム』

●2002年9月25日(水)

中川 明氏 (前北海道大学法学部教授、弁護士)

『少年事件とわたしたち』

場所：ソフィアンズ・クラブ
時間：10:30～12:00
会費：3,000円/年(英語学科卒業生)
5,000円/年(英語学科以外)
500円/1回毎

*事前の予約は不要です。当日直接会場にお越しください。

世話人：熊野 順子(昭和46年卒)

森本 佳子(昭和46年卒)

落合 彰子(会計)(昭和46年卒)

《同窓会からのお願い》

同窓会では、SELDAAの在り方とその活動について模索しています。その中には、インターネットを利用したネットワーク作りとか、過去に同窓会が実施した「SELNET」(卒業生の転職希望者と採用希望企業の登録制度)の見直しとか、最近の雇用情勢やその多様化を考慮したキャリア・デベロップメント・プログラム等がありますが決定には至っておりません。つきましては、同窓会の在り方やその活動について、広く皆様のご意見やご要望を募集いたします。同封の葉書にて同窓会事務局まで、または、e-mailにて seldaa@mve.biglobe.ne.jp までお願いいたします。

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください(英語学科同窓会事務局にお知らせいただいた場合、ソフィア会事務局にも通知しております)。

また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、会報に同封の葉書、あるいは、便箋等にご記入の上、同窓会事務局宛にお送りください(写真も大歓迎)。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局

FAX.03-3238-3910 E-mail:seldaa@mve.biglobe.ne.jp

(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。

(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円

一般会員 : 年会費 2,000円

(できれば3年分まとめて)

終身会員 : 一括払い 20,000円

■あなたの会費納入状況

封筒の宛名ラベルの右上をご覧ください。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

6,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

SELDAA 常任委員 (2002年4月現在)

- 名誉会長 / Michael Milward (英語学科長)
- 会長 / 石川雅弥 (昭和40年卒)
- 副会長・事務局長 / 池沢成実 (昭和48年卒)
- 副会長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)
- 会計 / 内藤恭子 (昭和55年卒)
寺北ゆかり (昭和61年卒)
- 会報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
- SELDAAセミナー / 安西徳子 (昭和49年卒)
- 常任委員 / 蔵田 實 (昭和48年卒)
増田 光 (昭和59年卒)
東郷公德 (昭和62年卒)
- 監査 / 井坂由美子 (昭和47年卒)
岩村玲子 (昭和49年卒)